

- 立科小学校/午前9時～午前11時30分
電話 56-3131 (呼)・有線2190 (呼)
- 立科中学校/午後2時～午後5時
電話 56-1076 (呼)・有線2251 (呼)
- 立科町児童館/
午前 11時40分～午後1時30分
電話 56-0303 (直通)
有線 8889 (直通)

※予約をされる方は児童館または小・中学校の
教頭先生へご連絡をお願いします。

それはリンゴとオレンジだ!

～「全国学力・学習状況調査」の結果発表を控えて～

立科町教育相談員 岩上起美男

例年、8月の下旬、文部科学省が、4月に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果を発表します。そして、その発表をメディアが大々的に報道し、学力論争がひとしきり巻き起こるのが例年の常です。

ひとしきりと申しましたのは、メディアの興味・関心が目まぐるしく移ろい、3日も経ちますと、児童・生徒の学力問題が報道されるのはごく稀になるからです。—— 一時的で、その場限り、という印象が強く、何とはなく、「ごどもの日」だけ子どもとしての権利や特典がほんの少し認められる子、「敬老の日」のみちよつと親切に遇される老人、「母の日」しか母であることの感謝を表されない母親、そして、「父の日」さえ忘れられてしまう父親の胸中が偲ばれる学力論争です。

しかし、ひとしきりの学力論争ではありませんが、様々な主張や意見の中には、子どもたちの学力を真摯に問う「声」が決して少なくありません。児童・生徒の学力問題にきちんと向き合い、その原因や背景に横たわっている複雑な要因を客観的に分析し、親御さん並びに先生方、市町村教育委員会の方に、子どもたちの学力に関する成果と課題、今後の方向性を端的に、分かり易く示してください。

が大勢いるのです。

その反面において、まことに残念ですが、毎年、平均点や順位が必要以上にクローズアップされ、次のような「声」も飛び交います。「全国平均との比較」や「順位の上下」ばかりがすたすと一人歩きしてしまうのです。

仄聞するところでは、以前、長野県内のある市町村の首長が、「我が市町村の()小学校は、毎年、全国の平均点を上回っているが、中学校は全国平均を超えたことがほとんどない。中学校に行くと子どもが馬鹿になってしまう。」と言いつつ放ったさうです。

先生方からも、「昨年度、本校は全国の平均点を下回ったが、本年度は上回った。学力向上の取り組みが功を奏した。」とか、「昨年度は全国平均を上回ったが、本年度は下回ったので、全教職員が一丸となって、来年度は全国平均を上回るように頑張る。」とか、まことに謙虚で、前向きな受け止めのようですが、実は、全国の平均点を過度に意識し、比較できないものを比較したり、優劣をつけたりするコメントが発せられます。メディアも煽り立てるような論調で報じます。

児童・生徒の学力が低下している。原因は「ゆとり教育」にある。このままでは国際競争にとても太刀打ちできない。

3年に一度、経済協力開発機構(OECD)が実施する「国際学習到達度調査」の結果からも、日本の子どもたちの学力低下は明らかであり、抜本的な対策を講じなければならぬ……。

子どもたちの学力低下は、教師の資質や指導力に起因している……。

鍛錬型の指導によって、きちんと基礎知識を身に付けさせたい。「知識」と「生きる力」は二律背反ではない……。

新聞を読むと、学力が向上する。家庭で新聞を読むことを習慣化したい……。

さらに、かつて、やはり県内のある市町村の教育長が、「正直なところ、学力調査の結果は大いに気になる。平均点より低いと一大事で、議会で学力向上に関する学校及び教育委員会の取り組みや改善の方向などが執拗に追及され、その結果、学校教育現場に無用なプレッシャーが及び、どうしても子どもたちと先生方との関係に微妙なひびが入ってしまうからだ。」と語ったこともあります。

事ほど左様に、夏の終わりは、学校教育関係者が、(程度の差こそあれ)一喜一憂する時節です。

今年も、その時期を迎えますが、都道府県別・市町村別・学校別の平均点や順位に振り回されず、次の六点について十分留意し、この調査の結果を冷静に受